

令和元年度

学校だより

1月



令和2年 1月7日 1月号 (第527号)

横浜市立すすき野小学校

TEL045 (901) 6232 FAX 045 (904) 4693

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/susukino/index.cfm>

すこやかスマイル すすんで考え行動し きょうかし合う すすきっ子

繋がる結びつきを大切に

校長 三橋 国雄

2020年(令和2年)、希望にあふれる新しい1年が始まりました。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

毎年元旦の朝は、今年1年でやりたいことや1年間続けることなどを考えています。今年は自分を振り返る意味も込めて、できる限り日記をつけてみようと思います。皆様はいかがですか？

すすき野小下の信号と正門横のそれぞれのフェンスには、父母と教職員の会で作成していただいた閉校に向けての横断幕があります。「46年間 ありがとうすすき野小学校」「絆 ありがとうすすき野小」閉校まであと3ヶ月となりました。最後まで感謝の気持ちを忘れずに、しっかりとまとめを行っていきます。そして、横断幕にもあるようにみんなで絆をしっかりと深め合い3月31日を迎えられるようにしていきます。



～絆～

「絆」の語源は今使われている意味とは少し違っていたようですが、次の話を見つけ、なるほどと思いました。「絆」の漢字のつくりは、「糸」+「半」です。一方が相手の力加減に関係なく引っ張ると糸は切れてしまうので、お互いが相手の力加減を思い引き合うことが大切で、そうすることで人と人とが繋がり結びつく。「絆」の漢字にはそのような意味があるということです。

ですから「親子の絆を深める」よく使う言葉ですが、この言葉にはいくら親子であっても子どもの力加減(子どもの気持ち)を親として思うことが大切であり、人と人が互いに相手の気持ちを気遣い合うことが大事ですよ。という意味になるわけです。

繋がる結びつきということであれば、お正月の風物詩でもある箱根大学駅伝があります。今年も様々なドラマがありました。青山学院大学が復活の優勝を遂げましたが、そこに至るまでの道は決して平坦ではなく、監督と学生との攻防があり、それに耐えられず、途中で退部をしていった選手もいたそうです。何をやるにもそうですが今やっていることをいかに自分事としてとらえ、自分なりの考えをもち望むことができるかが大切です。自分を知ることによって相手のことを考えることができる。だから絆を深め合うことができるのではないのでしょうか。この箱根大学駅伝は、仲間の走りを大切にしてチーム全員が最後まで諦めずに走り、人々に感動を与えてくれました。ここにもお互いが相手を思いやるすばらしい「絆」がありました。今回の経験は必ず次に繋がっていくのだと思います。

学校でも目標や、めあてを考えるときに「絆」という言葉がよく使われます。人と人とのつながりを大切にという意味での絆、チームワークとしての絆。どちらにしても相手を思うことを大切に繋がる結びつきを続けていけるよう、子どもたちへの支援をしていきたいと思っています。